

ことぶき共同診療所だより

第 22 号

2006年11月14日発行

横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F

電話とファックス 045-651-2305

E-Mail info@kyoudouclinic.com

URL http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目次

- 1階も借り、レントゲンも入りました…………… 田中 俊夫
- 10周年の集いが開かれ、10周年誌を刊行しました …… 編集部
- 鍼灸院も引越しました！…………… 新井 育子
- デイケアのイベントから……………
- バーベQ&川遊び(大平正巳)・流しそーめん(川崎正明)・稲刈り(石塚淳子)
- “診療室から”(18)―患者さんとの雑談―…………… 田中 俊夫
- 今年の夏合宿
- 学習会：メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)について…鈴木 伸
 身を持って…………… 菊地 加奈子
- 寿町・あれこれ 食事宅配サービス…………… 松本 一郎
- 診療所日誌…………… 矢島 雅子
- 職員自己紹介…………… 松本 愛・川崎 正明・天田 大輔・田村 節子
- 寿町地域ニュース・あらかると(2006年4月～2006年10月)…………… 寿町関係資料室
- 共同診療所・鍼灸院ガイド……………



1階も借り、レントゲンも入りました

私達の診療所は、入っている建物(リバーハイツ石川町)の2Fだけでこれ迄やっていたのですが、この度1Fも借りることができ、診療部門は1Fに下りることになりました。10月の15、16の両日をかけて、職員とその家族の方々にも手伝って頂いて、引越しをしました。

車椅子の患者さんを始め、高齢で足が弱くなっている患者さんも多く、1Fで診療することは長年の懸案でした。又、待合室をはじめ、すっかり手狭になってしまっていたので、場所が広がったことは全く画期的なことでした。

内科が専門の天田先生が、10月1日から来て下さることになったのに合わせるようにして、レントゲン室も設けることができました。これで施設入所のための診断書を当所のみで書くことができるし、結核の診断、整形外科の診断にも、有力な武器ができました。

ここ迄来るのに丁度10年、結構長い道のりでした。時間を重ね、人を得て、やっと次の出発点に立てたのかもしれないかもしれません。これで普通の診療所になれたと思ってしまうまいように、自戒して更に進んでいきたいと思えます。

(田中 俊夫)

第3診療室まであります(左)
受付(中央)も広くなりました



広くなった待合室。分煙を
始めました



レントゲン、入りました

10周年の集いが開かれ、 10周年誌を刊行しました

10周年の集い

7月23日、「10周年記念の集い」が診療所近くのLプラザにおいて開かれました。この集いは、診療所が4月1日に満10年を迎え、関係者の方々と職員が一堂に会し、これまで寿町での地域医療活動の基盤づくりができてきたことを共に喜び、今後の更なる出発を祝うために行なわれました。

集まっていた関係者・家族の方々は41人で、スタッフ・家族は43人でした。大勢の関係者の方々と一緒に、集いは盛大に和やかに進みました。また関係者の方々からは、たくさんの励ましのお言葉、お花、お祝いをいただき、ありがとうございました。

10周年誌

私たちは、この10年の節目にあたって、これまでの寿町における診療活動や諸活動を振り返りつつ、同時にこれからを展望したいと思い1つのかたちにしようと、2005年から準備を進めてきました。そして8月に「10周年誌」が刊行されました。

当所の地域医療の歩み・変遷、様々な出来事・場面、これまで関わっていただいた関係者の皆様の言葉、現職員・ボランティアさん・患者さんにとっての診療所が掲載されています。

また写真や作品もたくさん盛り込みました。

10周年誌をご希望の方は診療所(松本一郎)までご連絡下さい。



10周年誌もくじ

10周年誌発刊にあたって

1 ことぶき共同診療所の10年間

2 診療活動

精神科・神経科・心療内科・内科 / 整形外科 / エコー検査室 / 泌尿器科 / 看護

3 諸活動

精神科デイケア / 鍼灸院 / 無料健診 / 夏合宿 / 自然とのふれあい / 公園園芸 / 受付事務 / 寿町関係資料室

4 患者さんから

5 関係機関の方から10周年に寄せて

6 旧職員から

7 現職員・ボランティアさんから

8 付録

設立趣意書 / 年表 / 2006年7月現在の寿地図 / 感想 / 出版物・ホームページ

(編集部)

鍼灸院も引越ししました！

診療所の引越しに便乗して鍼灸院も移動致しました。場所は以前診療所のあった所で、2階に上がってすぐ右の部屋です。

今までの鍼灸院の部屋は、窓を開ければ目の前に建物の壁があった為、昼間なのに夜？晴天なのに曇り？みたいに少々陰気な感じがしていました。鍼灸院は具合の悪い方がいらっしやる場所なので、いつも換気を心がけて、悪い空気である邪気を追い払わなくてはなりません。しかし以前は何といっても目の前が壁ですから、風の通りも悪く、しかも食事時には目の前の建物からおいしそうな匂いがただよってきて、治療中にも関わらず気持ちがそちらにいつってしまうというように精神衛生上にもよくありませんでした。(ただの食いしん坊という説もありますが・・・)なので今回の移動を機会に、今までよりは明るく、風の通りもいい、爽やかな鍼灸院にしたいと思っています。

ありがたい事に鍼灸院として広いスペースをいただき、しかもスタッフの川崎さん、石塚さんの旦那様が汚れていた床を磨きあげ、窓を綺麗に拭いてく

ようこそ、新しい鍼灸院へ(旧診療所です)



れました。今まで使えていなかったバルコニーも川崎さんが掃除して使えるようにしてくれた為、ドアを開けると換気もバッチリ、しかも洗濯物も干せるようになりました。

問題は掃除下手な私がどれだけ今の状態を維持できるかということですが、掃除をすると運氣も上がるということで、すし、頑張ってみたいと思っています。

最後に、今は物が無くなってガラ〜ンとしている旧鍼灸院部屋。その部屋に行くとなんかホットします。知らない間に愛着を持っていたみたいです。旧鍼灸院部屋、お世話になりました。

(新井 育子)

デイケアのイベントから

バーベQ & 川遊び

ことぶき共同診療所ではデイケアメンバーさんや日頃お世話になっている方々と8月5~7日、静岡県稲子れんげ荘での2泊3日旅行に出掛けました。いつもビルやコンクリートに囲まれた生活をしているメンバーさんにとって、屋外で思いっきり川遊びや釣りをしたり、バーベQが出来る稲子の夏旅行は大きな楽しみとなっています。参加は例年を上回る約30名でした。

事前の準備では、皆でバーベQ用の肉(6kg)や野菜を買出しに行ったり、備品を揃えたり大忙しでした。

初日は、診療所前にバン5台が並び、まさに「民族大移動」さながらの状態で出発。途中、富士の温泉に寄った後、現地に着。夜は花火大会を開いたり川で泳いだりと、夏の夜を楽しみました。

2日目は、滝壺で泳いだり、釣堀で鱒を釣るなどしたあと、恒例のバーベQ大会を楽しみました。バーベQのあとは、これも恒例のスイカ割り大会を行うなど皆でクタクタになるまで遊びました。夜はメンバーさんによる手品大会を楽しみました。メンバーさんからは「とても楽しかった」「川で泳ぐ時間をもっと増やして欲しい」などの感想が寄せられています。

今年は、例年に比べゆったり過すことをテーマにプログラムを組んだせいか、調子を崩すメンバーさんも無く、無事夏の稲子バーベQ & 川遊びを終えることが出来ました。

(大平 正巳)

流しそうめん

去年は稲子で行なった流しそうめんを、今年は、8月30日(水)に吉浜町公園でやりました。一方を壁のような高速道路が走る、JR石川町駅となりの公園です。水は公園の水道からひき、竹は職員の橋本さんが用意しました。

空は、くもり、ときどきぱらつく雨。準備は、11時から、デイケアのメンバーさんと職員で、そうめんを流す竹の樋(とい)を作りました。太い、半分に割った竹のふしを抜き、それを接ぎ、三又の竹に載せ、全長12メートルの水路を組みました。水は、公園の木を利用して、枝からホースをたらし、流水を演出しました。そうめんはデイ部屋でゆでて、持ちこみです。

本番は、1時半からのそうめん流し。参加した人は、ろばの家と合わせて40人ほどで、予想よりたくさんの方が集まりました。樋の下流にそうめんが来ないと大騒ぎ。上流のひとに「交代してください」とかなんとか。流したそうめんは、実に15分足らずで無くなりました。「わたしは食べなかったよー」という人も出た大盛況の、お昼どきでした。

(川崎 正明)

稲刈り

9月16日、17日にデイケアで稲子に稲刈りに行きました。一度デイケアでない時に稲刈りに参加させていただいた事はあるのですが、デイケアの稲刈りは毎年別の行事と重なっていて参加できませんで

した。

久しぶりの稲刈りでしたが、ザクッザクッと稲を刈るのは楽しくて、ついつい夢中になってしまいます。皆さんも慣れていらして稲を刈っていく人、束ねる人、とテキパキと作業を続けていきます。「一緒にいこうよ」と私に言ってくれた、稲刈りには必ず参加するメンバーさんが次々と紐を切ってくれるので、稲はどんどん束になっていきます。家にいるときより働き者になる息子の姿を見られるのも稲子ならではの。

心配していたお天気も1日目、2日目とも晴天。2日目はお昼ご飯が終わったと

たん雨が降ってくるなど皆さんの日頃の行いがよかったおかげでしょうか？でも天気が良すぎて本当に暑い中の稲刈りになりました。作業も暑くて大変でしたが、皆さん夢中になってやっていたのですが、休憩をしながら現場監督をしてくれたメンバーさんには辛かったのではないのでしょうか。予定では秋風が吹くはずだったのに。稲が全部干された頃、田んぼは秋らしい風景になりました。

帰り際、次は来年の田植えでね、と稲子農場の佐藤さん。そして帰路へ。帰り道は雨がずっと降っていました。

(石塚 淳子)

“診療室から” (18)

患者さんとの雑談



イラスト Ikuko arai

私はなるべくたくさんの患者さんと“雑談”するように心がけています。といっても、患者さんの数が多すぎて、時間的におしてきてしまったり、こちらが疲れてきて、“もう早く終わりたいなあ”なんて思いたすと、そうも云っていただけませんが、基本的には何か一つぐらいは、体の具合以外の話をするように努力しています。

30年来の寿の知り合いのSというのがいて、私が何かの席で話しをした時に、“俊夫さんの所に何回か行ったけども、診察をしてくれないで、雑談ばかりするんだもの”と云っていました。でも結構楽しそうに云っていました。

雑談の種として一番多いのは、出身地（故里）にまつわる話です。これはまあ、聞き易いからですね。故郷のことを聞かれて気を悪くする人はまずいないからです。時には苗字から故郷を当ててみせます。沖縄の人はほとんど苗字（具志堅とか当真とか）で分かりますから、その後、本島ですか、離島ですか、等と聞きます。東北の人は苗字とイントネーションで大体分かります。例えば佐藤、高橋姓は東北に多いし、それも秋田や山形に多い。及川、菅原は岩手か宮城、津島は青森県でも津軽地方、田名部は南部地方出身に間違いありません。

故郷の話以外では、テレビは何を見てる？とか、プロ野球はどこを応援している？とか、昔やっていた仕事の話とか色々です。仕事の話をしていると、“箱根のロープウェイの鉄塔を作った”とか、“伊勢佐木町の松坂屋を作った”とか、プライドをもって話しをしてくれることがあります。

医者と患者という関係の間にある垣根はとても高く、そう簡単に平にはならないのですが、雑談をしているその先に、少しでも身近な人間関係が作られたらいいな、と思い今日も雑談を心がけている次第です。

（田中 俊夫）

今年の夏合宿

恒例の夏合宿が8月12と13日に東伊豆で行なわれました。前日の11日から子どもたち4人と大人6人が車2台に同乗し、にぎやかに現地へと辿り着きました(到着は深夜)。

12日は日中に川奈海水浴場で遊んだ後、帰って夕食の準備が終わった頃、土曜勤務組が到着。夕食前の学習会は、鈴木伸講師より、いま“旬”の「メタボリック症候群」について、クイズを織り交ぜながら、話していただきました。メタボリック症候群が引き起こす可能性のある病気、体内の2種類の脂肪の違い、高カロリー飲食物の例などを学びました。ついつい必要以上に体に取り入れて溜まってしまったものをいかに燃焼させるかが今後の課題となりますが、一番の実践は「無理することはないが、日々万歩計を使いながら意識的に歩くこと」だったと思います。

13日の海水浴は午後から、伊豆高原駅近くの、三橋さんによれば地元では穴場の岩場といわれるところへ行きました。穴場なのであまり詳しくは述べられませんが、確かに子どもも大人も楽しめるポイントでありました。

ということで、鈴木講師から当日の学習会について、それから、今回が初合宿の菊地さんに参加した感想を書いていただきました。(編集部)

夏合宿学習会報告

「メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)について」

毎年恒例の夏合宿では、今年は話題の「メタボリックシンドローム」について取り上げました。

戦争直後の1950年頃には、栄養状態、衛生状態が悪かったため、死亡原因は、結核や肺炎、気管支炎といった「感染症」によって多くを占められていました。

しかし、約半世紀たった現在は、栄養過剰、運動不足のために、死亡原因は「癌」とともに「心疾患」、「脳卒中」などの「血管の病気」が合わせて3割を占めるようになりました。この「血管の病気」を作りだしているのは、「動脈硬化」という状態です。そして、この動脈硬化をつくりだしている黒幕が「内臓脂肪」なのです。

「脂肪」はかつては、ただ体の中に居座るクッションのような存在だと思われていましたが、最近の医学の進歩では、さまざまなホルモンを分泌していることが分かってきま

した。特に「内臓脂肪」は血圧を上げたり、インスリンの邪魔をしたり、血を固まりやすくしたり、血管の壁を硬くするような「動脈硬化」をすすめる「悪い」ホルモンを出すことが分かってきたのです。

では、この黒幕の「内臓脂肪」を減らす薬はあるのでしょうか？ いまのところ、脂肪がすぐに減るといような安全な薬はありません。食事療法 運動療法という「王道」の2つをきちんとできれば確実に脂肪は減ります。しかし、長年培われた習慣を変えるのは容易ではありません。そこで、今日からでもすぐできる方法ということで(1)間食をまずやめよう(2)日常生活の中でいままでよりも少しだけでも動く量を増やそうという2点に絞って提案しました。

寿の患者さんでは、甘い缶コーヒー、ジュースをたくさん飲む方が多いのですが、缶コーヒー1本で角砂糖6個をなめると

一緒という話や、毎日今までより30分多く歩くだけで計算上は1年で4kgやせるという話をしました。会場からは、なるほどという

声があがっていましたが、一番真剣だったのは、最近腹回りが大きくなってきた私自身でした(苦笑)。(鈴木 伸)

身を持って...

私にとって初めての夏合宿の思い出の多くは、鮮明に思い出すことができないが、ある意味とても忘れがたいものとなった。ぼんやりとした記憶をたどる。

真っ暗な夜の海辺。墓地の前を通ってきたせいか、今にもお化けがでてきそうだと本気で思った。頼もしいほど勇敢な子どもたちに感動した。気味の悪い海と、まるで星が降っているかのように輝く花火のコントラストがたまらなく綺麗。胸の奥がわくわくして体が熱くなったのは、花火のせいだけではなく、勧められるがままに飲んだアルコールが原因に違いない。

夢のような楽しい夜が過ぎたが、私にさわやかな朝はこなかった。どうしようもない吐き気と頭痛でただただ苦しかった。帰りの電車で胃液がこみ上げてきて気分的には泣きたかったが、泣くことすらできず、もう当分飲まないと心に誓った。

身を持って酒の怖さを体験した。診療所で何気なく処方されている抗酒剤は使い方を誤ると凶器になるという点で、まるでダイナマイトのようだと思った。これからは飲酒に対してもっと慎重になろうと思った。色々あったがなかな

かおもしろい合宿だったと思う。

(菊地 加奈子)

寿町・あれこれ

② 食事宅配サービス

このコーナーでは、寿町の様子についての“あれこれ”を伝えていきたいと思います。今回は、食について取り上げたいと思います。

私たちは、自炊や外食、おかず・弁当を買ってくる“中食(なかしょく)”などを組み合わせて、日々の食生活を送っています。時折、出前・ピザ・弁当など近くの宅配を利用することもあるでしょうし、中にはデイケア、デイサービス、作業所などで食事作りや会食をすることもあると思います(“共食”)。食は状況や環境に応じて十人十色ですが、「誰と食べるか」については、現代日本人の核家族化・単身化によって「個食・孤食」が増えているとともに、「どの

ような手段で食べるか」については、現代人の忙しさ、共働きなどが加わって時間の節約が加速し、中食も当たり前となっています。

寿町の簡易宿泊所は、居室内に台所がある所は数少なく、共同の炊事場がフロア毎に1ヶ所あるのですが、必ずしも毎日の自炊に適している環境とはいえない面があります。冷蔵庫や食器の置き場もあまり残されていません。それに毎日のように外食で済ませると、家計が火の車になってしまい

そうです。寿町の住民は100%近くが単身の男性であり、中食化傾向は、町内の惣菜店やコンビニが繁盛していることを見ても一般地区より一段と進んでいるように思います。

この寿の中食利用者の多さと比べると人数・回数としては少なくなると思います



イラスト Ikuko arai

が、近年寿町では、食事宅配サービスが拡がりを見せ始めています。何よりも居室まで毎食運んでくれるのが便利です。ただし、その利点だけで利用者が増え始めているのではないようです。どういう人が宅配を利用しているのか、ある訪問看護師さんに聞いたところ、「食欲のない人、自炊・外食・買出しが困難な人、ヘルパーさんが毎日入っていない人が多いですね。食事は、排泄、水分補給、入浴とともに在宅ケアの基本だから。それにサービスを利用していると、その人の生活状況や体調が分かるし、高齢者食事サービス（後述）でなくとも事実上安否確認になる」とのことでした。最終的には生命にも関わります。寿町では高齢者、傷病者がとても多くなり、ケースワーカーさん、帳場さん、ヘルパーさん、訪問看護師さんが日々関わる中で、在宅福祉、在宅医療の視点により、栄養バランスの整った「食の確保」や食生活習慣の改善を目指した食事宅配サービスの必要性が増しているといえそうです。

とはいえ、あるヘルパーさんによれば、味や材料などにこだわりや好みのある

人の中には宅配の食事が単調と感じて長続きしないことも結構あるそうです。

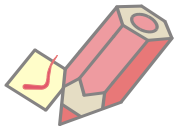
それから、「食の確保」にはもう1つ別の面があります。ある簡易宿泊所では多くの人が食事宅配サービスを1ヶ月契約で利用しています。例えば、ある1日で、昼13食、夕21食の利用がありました(夕は入居者の約1割が利用)。つまり、定期契約している人は料金前払いをしますから、1ヶ月先までの食事は確保されることになり、月末から月頭にかけて“金欠”となっても食の面では安心なのです(“食のセーフティネット”)。

なお、食事宅配サービスには宅配会社と直接契約する場合と、横浜市「高齢者食事サービス」を利用する場合があります。どちらも本人負担は1食500円前後で利用できます。後者は補助が出ており、ケアマネージャーによる食のアセスメントを前提に、横浜市と委託契約した事業者が栄養バランスのとれた食事を宅配し、あわせて安否確認までするものです。

(松本 一郎)

診療所日誌

06年6~10月

- 6月(吉浜町公園愛護会が出来て以降、公園園芸はますます充実しています)
6月23日 中土木事務所から公園に植える花をたくさん頂く。
6月29日 山友会クリニック(山谷)の鍼灸師さん2名見学にみえる。
- 7月(高齢の患者さんの施設入所、グループホーム入所が相次ぐ)
7月11日 デイケアメンバーNさん、グループホームへ入所のため、寿を離れる。DOTS
に来ていたAさん、部屋で亡くなっているのを発見される。
聖徳大学(通信)のHさん、1ヵ月の精神保健福祉士資格取得のための実習
に入る。
7月14日 デイケアメンバーと病院訪問(神奈川病院、神奈川第二病院)
7月21日 新人職員研修始める。
7月23日 10周年記念のつどい開催(於:Lプラザ)。参加者84名。
7月25日 診療所で一世を風靡していたTさん、入院先のM病院で亡くなる。 
7月26日 川崎さん、職員として勤務開始。
- 8月(今年も暑い、あつい夏でした)
8月3日 デイケアメンバーと病院訪問(保土ヶ谷病院)
8月5日~7日 デイケア、稲子でバーベキューと川遊び。初めての参加者多く、大人数。
テントや車も使って宿泊。
8月7日 診療所1階、工事始まる。
8月12日~13日 夏合宿(於:伊豆城ヶ崎海岸)
8月24日 肺炎を起こし総合病院に救急搬送されたHさん、精神科がないとの理由で帰
され、別の内科の病院に入院。
8月26日 「ことぶき共同診療所10周年誌」完成。
8月30日 ろばの家と共催で流しそうめん大会開催(於:吉浜町公園)
- 9月(4月からの自立支援医療開始の余波が続き、事務は大忙し)
9月2日 10月から天田先生が来てくれることになる。
9月16日~17日 デイケア、稲子で稲刈り。
9月25日 千葉の家電手分解工場(光和・共進)へ見学。アルクから4名、寿労働センタ
ーから1名、プラザから1名、診療所より3名参加。
- 10月(診療所の移転、職員の増員等、変化の多い月でした)
10月3日 内科のDr.天田、看護師の田村さん勤務開始。
10月7日 デイケアメンバーさんとともに1階のワックスがけ。
10月15日~16日 診療所1階へ引越し。
10月17日 1階での初めての診療。広いスペースに慣れず、戸惑いの患者さんと職員た
ち。診察室では各患者さんから「広くなって良かったですね」と異口同音の
喜びの言葉がたくさん。コスモス寿からお祝いの生花をいただく。
10月18日 共同診療所通院患者さん対象のレントゲン検診(42名)。
腎不全、心不全で総合病院に運ばれたKさん、精神症状はないものの、精
神科の患者さんであるとの理由で、退院となる。同夕、別の内科病院へ救急
搬送、残念ながら2週間後に亡くなる。
10月20日 有馬病院へ往診。
10月26日 元老人クラブ会長の高木さんが22日に亡くなられ、葬儀がいとなまれる。
10月27日~28日 稲子に畑作業へ。デイメンバーのTさん、一足先に電車で向かい、
途中の駅から電話がある。
10月31日 第5回診療所大運動会。アルクや作業所の方々、ヘルパーさんや訪問看護
の利用者さんなど総勢120名の参加。
アルクより1階移転のお祝いの大きな生花を頂く。(矢島 雅子)

職員 自己紹介

松本 愛

はじめまして。今年の4月から勤務しております、松本です。

早いもので、私が診療所で勤め始めてから半年の月日がたちました。

最初に診療所に来たとき、職員の皆さんに「松本さんのこと何て呼ぼうか？『松本さん』も『あいちゃん』も、もういるんだよなぁ～～！！」と言われました。そのときは真剣に、自分の面白いニックネームを考えたりしていましたが、結局、現在では多くの方に『まつもとあいさん』とフルネームで呼ばれています。フルネームで呼ばれるのは案外いいかもしれないと感じている今日この頃です。

最近になって、あっという間に一日が過ぎてゆく診療所の雰囲気、ようやく慣れてきたところです。普通の医療機関（診療所）とはどこか違うこの雰囲気が私ほとても好きで、沢山のことを患者さんから、

職員さんから、地域から学んでいます。これからもっともっと、自分も成長しなければならぬなあと考えています。

また余談ですが、私は「酒豪」との噂もあるようです。自覚はないのですが、居酒屋・酒屋巡りは大好きです。たしかによく足がつったりします。診療所に来ている患者さんも同じような訴えを先生に話しているときがあるような・・・これからも一生懸命頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

川崎 正明

寿町に初めて来たのは、1968年の12月のことでした。それからいろいろあり38年が、経ってしまいました。7月の末から、ことぶき共同診療所の職員として、寿町に戻っています。

この数年間は、社会保険横浜中央病院、みなと赤十字病院などで清掃労働者として働いてきました。今回は田中俊

夫さんや藤枝さんとの縁で寿町で働くことになりました。

私の青春時代の寿町は、日雇い労働者の街でした。まち全体が若かったように思います。子どもたちも多く、外から来るボランティアも、子どもを相手にする人が主だったのです。

年を経て来たことぶきは、老人のまちでした。

診療所の診療以外の、いろいろある仕事の中で、住民が宿泊所から宿泊所へ引っ越しをするのを助ける引越業という、デイケアの一環としての業務があります。私は引越業の打ち合わせで、どやによく入るのです。

昔知っていることぶきに較べて、部屋の荷物は格段に増えています。仕事から帰って次の仕事のために寝る部屋から、24時間生活する場へと変わったのです。体がいうことをきかなくなり、片付けもおぼつかない年齢におおくの人になっていました。

若いとき私は、ことぶきの現実、社会体制の変革なしには解決しないだろうと考え、社会運動に身を投じ、数十年費やしてきました。今もその考えは変わっていないのです。

おなじ時代を生きてきたことぶきの人びとと、ともに歩む人生を選択しようと、転職のこの機に考えたのです。懸命に生きようと思います。(2006・10・23 記)

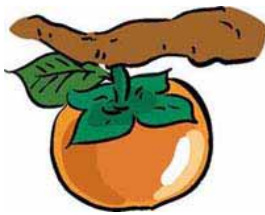
天田 大輔

みなさん、はじめまして。10月からことぶき共同診療所で勤務となった、天田大輔と申します。これまで東京の病院で総合診療科・内科として勤務してきました。今後、内科を中心に初期対応が必要な科も担当させて頂きまますので、よろしく御願い致します。ところで、私が診療所で働くようになった経緯をお話したいと思えます。

これまで働いていた病院・診療所では、精神科疾患のある患者さんに対する対応が不十分なことが多いと感じていました。また、これまでの日本の精神科医療は長期入院には対応しても、地域で生きる患者さんへの対応は不十分であると思っていました。そんな中、大学の同級生である鈴木伸先生に、ことぶき共同診療所での精神科地域医療はどのようにしているのかを聞いたことから始まりました。今年の1月に診療所に見学にきましたが、診療所というよりは自宅のような雰囲気、患者さんはいくら待たされてもスタッフと楽しそうに会話している姿をみて医療の

原点を見た気がしました。そして、医師が足りないという現状を聞き、10月から勤務させて頂いたという経緯です。

診療所に働き始めてまだ1ヶ月ですが、素晴らしい面・もう少し改善した方がいい面も少しずつ見えてきました。これまでの10年間の診療活動が実り、1日平均150人もの患者さんが訪れるようになったのですから、さらによりよい医療を提供できるようにしていきたいと思います。今後とも何卒宜しくお願いします。



田村 節子

10月から、こちらでお世話になっている田村です。ここ寿町は、コスモス寿の西村さんに誘われて4月からコスモスで仕事をしていましたが、診療所が新しく大きくなるので手伝ってほしいと言われ、18年仕事から離れていた私に仕事ができるかとても大きな不安がありました。コスモスでも何とかスタッフや患者さんに助けられて仕事をする事ができた事や、西村さんに背中を押されてきました。この町もまだまだわからない事だらけです。仕事も忘れていた事や新しい事などを、1から学ぶつもりで仕事をしたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

寿町地域ニュース・あらかると (2006年4月～2006年10月)

【歴史】寿町で第1号簡易宿泊所「ことぶき荘」が営業を始めて50年となる(06.10)【医療福祉】生活保護「老齢加算」が完全廃止(06.4) / パン券宿泊券大幅見直しが始まり相談者が激減(06.10) / 障害者自立支援法が本格施行され、引き続き自立支援医療など現場は混乱(06.10) / 生活保護利用者の市無料パス券が廃止(06.10)【簡易宿泊所】みらい館オープン(06.7) / 松影会館建替新築中(06.10 現在) / 三都荘新館新築中(06.10 現在)【環境】長年の焚き火の“すす”で黒く覆われていた寿町総合労働福祉会館の天井が、白い花柄レース模様になる(06.7 完成) / 横浜市ハマロード・サポーター事業で健仁外科前・勤労協前の歩道・花壇整備(06.10)【地方自治】改正地方自治法の施行を受け、「横浜市寿生活館3・4階」の指定管理者が財団法人寿町勤労者福祉協会となり、「横浜市ホームレス自立支援施設 はまかぜ」については社会福祉法人神奈川県匡済会となる(06.7 から5年間)
(寿町関係資料室)

医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

診療科目 **精神科 神経科 内科 心療内科**

整形外科 鍼灸 (泌尿器科は今年度お休みさせていただきます)

診療所

	9時30分	12時	14時	18時
月	休診			
火	田中・鈴木・天田	昼 休 み	田中・鈴木・天田	精神科・神経科・内科
水	越智・天田		越智・天田	精神科・心療内科・内科
木	田中・鈴木・天田		田中・鈴木・天田	精神科・神経科・内科
金	鈴木・越智・天田		越智・天田	精神科・神経科・心療内科・内科
土	整形外科・精神科・神経科・内科			

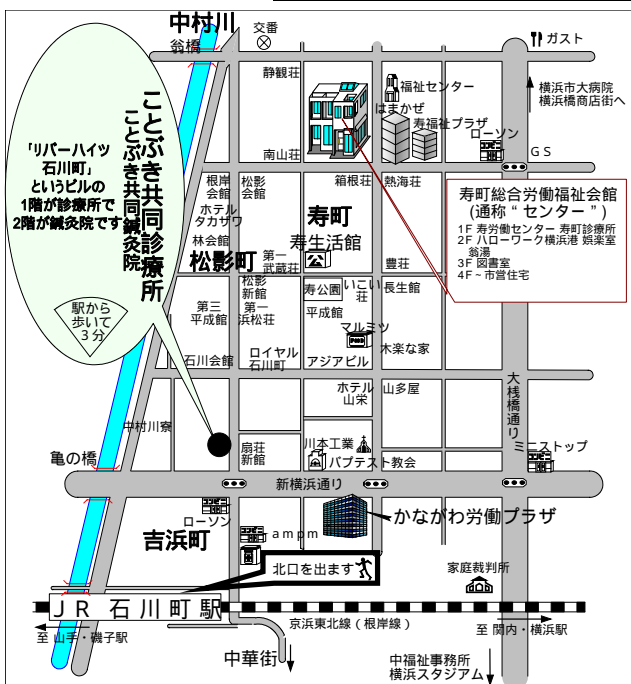
第1・2・4・5週 三橋・鈴木
第3週 大脇・鈴木

鈴木美奈子医師(エコー検査・内科)の診察は、月2回、水曜9時30分~16時(休憩12時~14時)です。

鍼灸院

	10時	12時	14時	18時
火	新井	昼 休 み	新井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新井		新井	
金	新井		新井	

鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください。



保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護法
精神保健福祉法(その他、医療福祉相談も受け付けています)

心理判定(月1回)

寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17

リバーハイツ石川町 1・2F

でんわとファックス

(045) 651-2305

e-mail info@kyoudouclinic.com

ホームページ

http://kyoudouclinic.com

2006年11月14日現在